

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和元年度 兵庫県農業気象技術情報第4号（8月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全県共通	<p>1 生育 県南部の生育は、草丈が平年より長く、茎数は平年に比べて極早生種の「キヌヒカリ」では少なく、早生～中生の「きぬむすめ」、「ヒノヒカリ」では多い。 県北部では、草丈は平年並で、茎数が非常に少ない。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや遅い。</p> <p>2 病虫害 (1) いもち病の発生は、県全体ではやや少ない発生であったが、今後はやや多い発生が予想される。</p> <p>(2) 紋枯病の発生は、県全体ではやや少ない発生であった。今後の発生は、平年並と予想される。</p> <p>(3) ヒメトビウンカ、セジロウンカとツマグロヨコバイは平年並、トビイロウンカはやや少ないと予想される。今後気温は平年並みと予想されるため害虫の増殖には好適となるため発生の推移に留意する。</p> <p>(4) イネツトムシについては、やや少ない発生と予想される。</p> <p>(5) 7月におけるカメムシ類の生息密度はやや多く、本田では例年よりやや早い時期から発生が確認されている。今後はやや多い発生と予想される。</p>	<p>1 生育 早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。 極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。 乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、水管理は、湿潤（飽水）状態で行い、根の活力の維持に努める。</p> <p>2 病虫害 (1) ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所など水田内に入ってよく観察し、いもち病が発生していないかを確認する。進行型病斑が多い場合は、治療効果の高い薬剤で防除する。</p> <p>(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前の薬剤防除を行う。</p> <p>(3) ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用したイネにおいても、薬効切れに伴い発生が増える場合もあるので、ほ場内の発生に注意する。</p> <p>(4) 7月下旬から8月上旬に2株に1個以上のツトが見られる場合は薬剤防除を実施する。</p> <p>(5) カメムシ類の発生状況を確認したうえ、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに実施する。出穂間近の畦畔除草は、かえってほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
大豆	全県共通	<p>1 生育 (1) 出芽、生育は概ね順調である。</p> <p>2 病害虫 (1) 茎疫病及び紫斑病の発生に注意する。</p> <p>(2) ハスモンヨトウ・カメムシ類等の発生に注意する。</p>	<p>1 生育 (1) 降雨後は、ほ場内に雨水が滞水しないように、排水対策に努める。 土壌が乾燥する場合には走り水灌漑を行う。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意する。</p> <p>2 病害虫 (1) 茎疫病は、排水対策を徹底する。高温乾燥時には、かん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。 紫斑病は開花期に防除する。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけしだい除去する。カメムシ類は着莢初期～子実肥大期に防除する。</p>

〔参考〕 水稻生育予測サイトによる出穂期の予測

(7月25日現在)

地帯区分 地点 移植日 苗齢(不完全葉含む) 品種	県南平坦部 たつの市 揖保町 6月10日 3.5 ヒノヒカリ	県南平坦部 加東市 天神 6月5日 4.5 山田錦	淡路平坦部 南あわじ市 榎列 6月20日 3.5 キヌヒカリ
推定出穂期	8月29日	8月25日	8月18日

(注) 予想出穂期は7月25日以降、気温が平年並に推移した場合の予測値です。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理 (1) 育苗において、特にセル育苗ではかん水の過不足がないよう注意する。</p> <p>(2) 水利のよいほ場の選定と排水対策を主としたほ場準備に努める。</p> <p>(3) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p>	<p>1 栽培管理 (1) 日中高温時は寒冷紗等の被覆資材や換気により昇温を抑制するとともに、かん水の不足がないようこまめに苗の観察を行う。</p> <p>(2) 本田はかん水が可能なほ場を選定する。弾丸暗きよや額縁明きよ等の排水対策を行う。土壌が適湿な時に耕うんし高畝にする。</p> <p>(3) 定植後は、手かん水あるいはかん水チューブ等を設置し十分にかん水する。定植以降も高温乾燥が続く場合は、活着を促進させるためのかん水を行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ (びんき)	全県共通	(4) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。	(4) 排水溝の点検を心がけ、特に大雨が予想される場合には溝をさらえておく。降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、降雨後の早期の排水に努める。
		2 病害虫 ハイマダラノメイガの発生は平年並みであり、本種は例年8月以降密度増加が見られており、今後、被害に対する注意が必要である。	2 病害虫 育苗期や定植直後の被害が大きいので、発生初期の防除に努める。「病害虫発生予察情報」「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。
果樹	全県共通	1 生育 (1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。 (2) 樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。 (3) 適期収穫に努める。	1 生育 (1) 高温乾燥が続く場合は、適度な土壌水分を維持するため、かん水、敷きわら、敷き草等のマルチなどを行う。土壌水分の競合を避けるため下草を刈り取り、マルチ資材にする。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効である。 (2) 樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏期剪定を行う。 (3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ、高温障害等から、収穫適期を判断する。
樹種別の生育状況（7月3半旬時点）			
		クリ	生育は平年並みで、着果は良好である。2次花の発生が一部見られる。
		ブドウ	生育はほぼ平年並み。着色は平年に比べ早い。
		ナシ	開花期は平年より1日遅かったが、果実の生育は平年並み。着果量は「二十世紀」で平年並み。
		イチジク	着果始めは平年に比べ1日早く、新梢の生育は平年並みである。
		温州ミカン	園によって着果のばらつきが大きい。果実の生育は平年並み。生理落果は少ない。
調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市			
		2 台風対策 気象情報に留意し、台風の接近が予報されている場合は右記の対策を行う。	2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。 台風通過前から、病害対策のため防除を行う。カンキツ類は台風襲来前や通過後にはかいよう病の予防散布を行う。黒点病は前回散布から降水量が200～250mmを超えたら、防除を行うと共に、感染拡大を防ぐため、枯れ枝除去を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹 (つぎき)	全県共通	<p>3 病害虫</p> <p>ナシでは黒星病・黒斑病の発生は平年よりやや多く、今後もやや多い発生が予想される。ハダニ類の発生は平年よりやや少なく、今後は平年並の発生が予想される。シンクイムシ類、ハマキムシ類も平年並と予想される。</p> <p>果樹カメムシ類は、やや多いと予想される。</p>	<p>3 病害虫</p> <p>ほ場での病害虫発生状況をよく観察し、適期に防除する。防除薬剤については「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、農薬使用基準を守るとともに周辺農地への飛散防止に努める。</p> <p>果樹カメムシ類対策については、病害虫発生予察注意報第1号を参考にすること。</p> <p>http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/31tyuuihou1.pdf</p>

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
 ※本情報は、7月25日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月3日～9月2日）

[令和元年8月1日 大阪管区気象台発表]

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

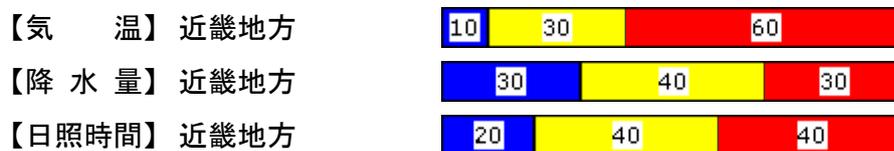
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または高い確率ともに40%です。

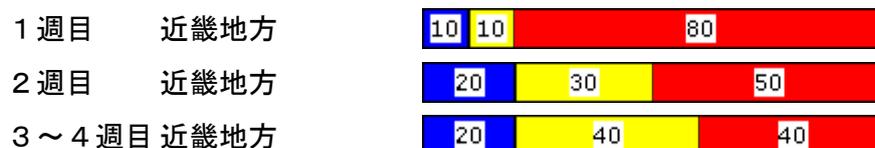
週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



凡例： 低い（少ない） 平年並 高い（多い）

<気温経過の各階級の確率（%）>



凡例： 低い 平年並 高い

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

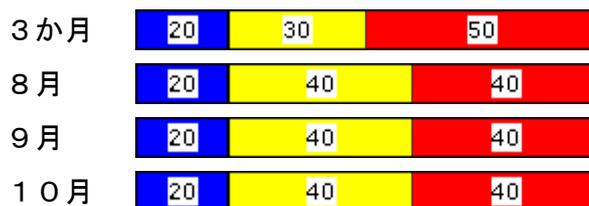
9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）>

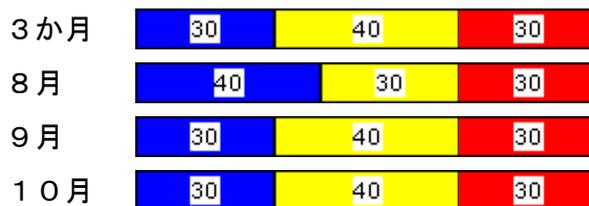
【気温】

[近畿地方]



【降水量】

[近畿地方]



凡例： ■ 低い（少ない） ■ 平年並 ■ 高い（多い）

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)